

社外取締役からのメッセージ



取締役(社外取締役)
川喜田 久

先駆けて新たな価値を生み出し、地域、お客さまの課題解決に大きな役割を果たすことを期待しています。

Q 百五銀行のガバナンス体制・実効性について、どのように評価しているでしょうか。

当行の社外役員比率は47%で、その割合は上場している銀行86社中29位となっています。社外役員7名全員が独立役員で、そのうち2名は女性役員、そして、社外取締役はさまざまな経歴・経験を持ち、社外取締役比率は40%となっており、独立性・多様性が確保された体制となっています。

中期経営計画の策定においては、原案の段階から社外取締役に共有していただき、議論を行いました。指摘した事項については修正案をいただき、再度議論するというプロセスを経て策定されました。社外取締役からの意見も計画に反映いただき、多様な角度から十分に検討されたと思います。

Q サステナビリティへの取り組みをどのように評価しているでしょうか。

当行は、長期ビジョン「グリーン&コンサルバンクグループをめざして」を掲げており、地域やお客さまの脱炭素化への取り組みを、当行がファイナンスとコンサルティングを通じて支援することに、大きな期待を持っています。

当行は、国内で初めて円建てグリーン預金を開発し、当行とお客さまが一体となって環境改善と地域経済へ貢献するものであることが評価され、2022年に「第7回サステナブルファイナンス大賞」における「地域金融賞」を受賞したことは喜ばしいことです。今後もこのような新しい価値を生み出すことに期待しています。

コンサルティングへの取り組みでも、当行が果たす役

割は大きいと感じます。中小企業の8割は、環境問題が重要なことは認識しているものの、自社のCO₂排出量が分からないというアンケート結果がでており、当行は、測定・分析、コンサルティングにより、お客さまの脱炭素化を支援しています。

今後、自動車業界はEVの普及拡大が見込まれ、それに伴い、1万点の部品からなる内燃エンジンがなくなることは、100年に一度の大変革です。製造品の出荷額における自動車関連製品が占める割合は、全国平均17%に対し、三重県は24%、愛知県は48%と高くなっています。EVへの移行リスクは大きく、当行が地域の力とされるように取り組んで欲しいと思います。

Q 百五銀行の企業風土をどのように見られているでしょうか。

当行は「お客さま第一主義」「堅実経営」を買ってきたからこそ、昭和恐慌、リーマンショックといった荒波を乗り越え、揺るぎない信用を得られているのだと思います。今後も引き続き、堅実に取り組んでいただきたいと考えています。

そして行員の方には、少し遊び心を持ってほしいと感じます。私は毎年、年賀状に「文字遊び」を書いており、以前、「遊幅内寿出」と書きました。「遊びの幅が広がれば広いほど、その内側から寿がでてくる。そうするとYou have a nice dayになる」ことを意味しています。遊び心が、これまでにない新しいアイデアを生むとともに、より明るく楽しさのある職場、エンゲージメントの強化にもつながります。そうなるためには、まず上司が遊び心を持ち、後ろ姿を見せることです。部下の意見に対し、いいね、おもしろいねといった度量の広さを持った対応ができると、風土は少しずつ変わっていくと思います。

Q 人材育成への取り組みをどのように評価されているでしょうか。

「プロフェッショナル人材の育成」においては、資格取得を推奨し、資格取得者数の目標を掲げています。さらに、実践型(トレーニー型)の研修により実際の業務に携わることで、経験の幅を広げることができるので、非常に良い取り組みだと思います。

人的資本を充実させるためには、自立した主体性を持った行員を育成することが重要です。それには、決められたプロセスに従って仕事をするだけではなく、自分の頭



を使って考えることが必要です。山登りであれば、どのルートで登るのか、持ち物は何が必要かなど考えることによって、さまざまな知識が得られ、気づきがでてきます。それが新たな意欲、自立につながります。

また、先駆けて、勇気を持って飛び込む精神を持つことも大切です。私が会長を務める三重トヨペットの本社には、「他に先んじてものごとを始め、成し遂げる」という意味を込めて私が作った“魁”(さきがけ)という作品があります。先駆けるには、チャレンジ(challenge)、カレッジ(勇気)(courage)、コミュニケーション(communication)の3Cがないとできません。コミュニケーションをしっかりととりながら、チャレンジ精神、勇気をもって取り組むことで、先駆けることができます。

Q 今後、百五銀行に期待することをお聞かせください。

引き続き、地域のお客さまの課題解決に大きな役割を果たし、地域社会の持続的成長に貢献すること、そして脱炭素などの社会課題の解決に積極的に取り組むことに期待しています。それにより企業価値を高め、ステークホルダーの皆さまの信頼を得ることが当行の使命であると考えます。

前項では3Cについて触れました。コミュニケーションをとりながら、チャレンジ精神を持ち、勇気を持って一人先駆けて飛び込んでいくファーストペンギンの精神を行員に期待したいです。

脱炭素への取り組みに関しては、提言させていただきましたが、緑化推進は植えるだけでなく、木材を使うことが重要です。当行も、三重県にある多くの木材を率先垂範して使い、地域における緑の循環により力を入れて欲しいと思います。

長期ビジョンの実現に向けて、社外取締役として客観的な視点から提言し、貢献してまいります。